

【訂正表】本文36ページに訂正がはいります。

上段 最初の台詞「ちよ、——返して！返してよ！」のあと、それに続くト書き「シケモク……」から台詞「無事で。またお会いできて……！」までが下段に移ってしまっており、下段に移ってしまった数行を、上段に差し込んでお読みくださいますよう、お願いいたします。正しくは、左記のようになります。お詫びして、訂正いたします。

七、母恋の詩Ⅱ

昭和20年、11月。有楽町。有楽座近くの路上。

人々に紛れて、ふさえがいる。

擦れ違った男、遠藤慎次、ふさえの鞆を盗る。

ふさえ

ちよ、——返して！返してよ！

シケモク拾いをしていた弥次郎、慎次を捕まえて戻ってくる。

弥次郎

返してくんねえか。知り合いなんだわ。

ふさえ

——……おじさん！

弥次郎

やつぱり姪っ子か。生きてたなあ。

ふさえ

おじさんこそ。……無事で。またお会いできて……！

弥次郎

さつぱりした格好して。見違えたぞ。今日は煤つけてねえじゃねえか。

ふさえ

もう、あんな日は来ませんから。

慎次

なんだよ、オッサンの姪？

弥次郎

ちげえよ。知り合いの、——おい、エンピツは？

ふさえ

元気です。家は焼けましたけど。早くまたシナリオを書きたいって言ってます。

弥次郎

そうかあ。会いてえなあ。

慎次

有楽座の？

弥次郎

おお。——お前、こんな嬢ちゃん狙うんじゃねえよ。

慎次

こいつがいけねえんだ。

弥次郎

……あ？

慎次

さつき交通公社のところで給料袋握りつぶして捨ててた。こんなものって。

ふさえ

あれは、

慎次

すぐ同僚みたいな奴が拾って押しつけたけど。金捨てるなんざ、いいご身分ですね。

ふさえ

違うんです……、

慎次

あんた、あそこに勤めてんだろ？給料取りがほざいてんじゃねえよ。馬鹿

野郎。(鞆をふさえに返す) いらねえ金なら使つてやる、